



長野県建築士会

佐久支部

# らしく又



## 佐久の札所

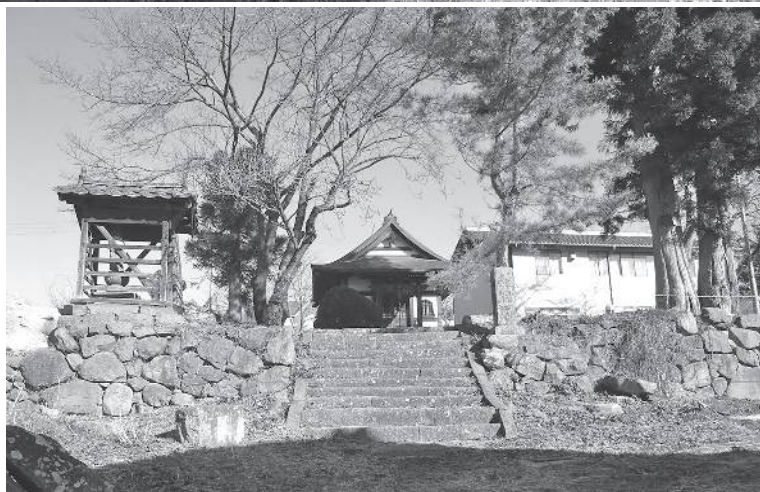
### 第3番札所 西光寺

小諸市西原4039

以前、当境内は地元の子供たちの一番の遊び場であった。

現在は、大きな茅葺き屋根の本堂はなくなり、小さな観音堂だけである。昔の賑いはなく、静けさを感じる。

市指定の保存樹木「二本杉」は高さ20数メートルあり、地元の誇りでもある。



支部長あいさつ	2
建築課長あいさつ	3
事業中間報告	4~5
建築士ネットワーク・佐久2016	6~7
小諸市氷区氷室調査活動について	8~9
ウッドクラフト2016	10
文化賞入賞者	11
特別寄稿	12~13
新会員の声	13~14
賛助会員の紹介	15
事務局より	16



## 新年のご挨拶

(一社) 長野県建築士会佐久支部

支部長 荻原 白



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

昨年4月14日に熊本県で発生した最大震度7の地震は現在も熊本県・大分県では時々地震があり、更に10月21日には鳥取県でも最大震度6弱の地震が発生し、三県及び隣接県では大きな被害に見舞われてしまいました。幸い長野県では大災害も無く平穏無事の年となり佐久地方に於きましても安泰な穏やかな年でした。

私は支部会員の皆さま方の温かいご支援とご協力により支部長の責務を何とか務めさせて頂き心から感謝申し上げます。残り5ヶ月弱の任期ですが、本年もどうぞよろしくお願い致します。

長野県建築士会は平成25年度一般社団法人に移行した際に作成した『公益目的支出計画』が平成28年度で完了する予定となり、以降は県の関与がなくなる見込みとなります。これからの長野県建築士会の活動と佐久支部の活動を考え「公益か一般か」をしっかりと検討し不明点等の確認は場々会長に佐久支部に来て頂き、私共の意見を纏める環境を整えますので本会に意見を挙げていきましょう。下記が昨年5月28日の総会にて承認された平成28年度の長野県建築士会の重点事業です。

### 1 公益社団法人を目指した検討と公益活動の

推進(社会貢献・景観整備機構)

- 2 災害支援体制の対応・強化・ネットワーク防災の研究
- 3 支部のあり方研究と組織統合の検討・推進
- 4 多彩な研修活動の企画と実施(ハルティエー・マネージャー養成講座・信州木造塾・各種講習会)
- 5 活気ある建築士会活動の発信(建築士フォーラム・青年女性建築士の集い・建築士セッション)

佐久支部では、上記5事業を基本に『花も実もそして力もある』活発な支部活動を実践し本会及び他支部に今年も強くアピールして行きましょう。

4月から地方事務所を「地域振興局」と改組し地方事務所-建築課は建設事務所への移管となります。佐久支部事務局が白田の佐久建設事務所に引越するののか現佐久合同庁舎内に留まるのかは、まだ詳細は不明ですが判明しましたらきちんと対処します。

2月21日(火)19時より佐久グランドホテルに於いて「支部長の選出」と「支部規約の改正」を議題に支部臨時協議会を開催しますので会員の皆さま出席をお願いします。

更に2月2日(木)15時30分より「第13回佐久地域建築文化賞 表彰式」16時頃より新年講演会、講師：武者忠彦先生 演題：「地域再生と建築士の役割」を開催いたします、友人知人にお声を掛けて頂き大勢の皆さまのご参加をお待ちしております。

支部会員の皆さま方のご健勝とご多幸と更なるご活躍を祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。





## 新年のご挨拶

長野県佐久地方事務所

建築課長 荒城 功次



新年あけましておめでとうございます。

建築士会会員の皆様、平成29年の新年をいかがお過ごしでしょうか。

近年の建築士会佐久支部のご活躍

は、まちづくり、景観育成、建築啓発、社会貢献活動と多岐に渡っていますが、それぞれ精力的に行っていたいただき、建築行政を担う者として敬意を表すると共に、大変感謝申しあげております。

さて、年頭にあたりまして、昨年の活動を振り返りながら近況報告等をしたいと思っております。建築を取り巻く環境は、年々複雑となっておりますが、長野県といたしましては、「信州の気候・風土・資源を生かし、心の豊かさが実感できる住まいづくりをめざして」を基本目標に各種施策を実施しております。

その中でも、安全・安心に関し重要なのが、応急危険度判定業務です。昨年10月、県の総合防災訓練に併せて、士会と佐久市で模擬訓練を実施していただきました。私も参加し地方事務所のブログにも載せていただきましたが、大変よい訓練だったと思っております。1月末には判定士の講習会を佐久合同庁舎で予定しておりますので、未登録の方は是非受講をお願いします。今後とも市町村を巻き込んだ活動に発展させたいと思っております。

次に、今後も増えるであろう空き家対策です。

現在、佐久地域全体で連絡協議会を設置して、相続関係など権利関係を中心に事例研究を行っており、今後の利活用などの事業化を進めて行く方向です。その時は市町村ごとに協議会を設置すると思っておりますので、相談業務など皆様の御協力をお願いいたします。

また、経済指標であります新設住宅着工統計でございますが、4-10月累計の昨年度比は、佐久管内・長野県共に11%強の増となっております。全国でも7%の増ですので、概ね良好の傾向であると考えます。利用形態では、分譲と貸家が20%以上の増、市郡別では、南佐久郡と小諸市の伸びが目立っております。しかし、景気全体の先行きとしては、依然不透明なところが多いことから、今後も注視していきたいと考えております。

さて、支部の地域実践活動につきましては、全国的にも類を見ない実績があり、私も大変期待しております。特に、小諸市氷区の風穴を活用する調査と計画などは、今後の可能性も含めて、興味深い活動と考えております。私たち建築課でできることがございましたら、気軽にお声をかけていただきたいと思います。

県では、平成29年度から大規模な組織再編の計画があり、「地域で解決できることは、できる限り地域で解決できる組織」として、【地方事務所】を【地域振興局】とし、【建築課】は【建設事務所】に移管することとなります。当面は、従来どおりの業務を、現在の場所で行う予定ですので、特段の変化は無いものと考えております（建築士会事務局も、現状のままです。）。地域の課題に対しても、従来通り職能団体であります皆様方と連携を取りながら、積極的に進めて行く所存です。

結びに、会員皆様の御健康と御多幸を心より御祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

## 平成28年度 事業中間報告

月 日	行 事 名	場 所
7. 5	東信ブロックゴルフコンペ	ウイゴカントリー倶楽部
7. 10	第1回氷地区風穴周辺の清掃作業	小諸市氷地区
7. 12	第2回社会貢献委員会	野沢会館
7. 15	県総合防災訓練分科会	佐久市コスモホール
7. 15	第2回交流委員会	野沢会館
7. 27	県フォーラム実行委員会	長野県建築士会館
7. 27	第1回三役委員長会議	佐久グランドホテル
7. 29	第1回実務講習会	佐久平交流センター
8. 18	第3回教育事業委員会	野沢会館
8. 18	第1回総務企画委員会	佐久グランドホテル
8. 20	親睦ソフトボール大会	白田総合運動公園
8. 20	氷地区 風穴に関する勉強会への参加	小諸市氷地区公会場
8. 27	第3回全国風穴サミット in 信州上田への参加	あいそめの湯ホール
8. 29	第1回法人推進特別委員会	長野県建築士会館
8. 31	県総務情報委員会	長野県建築士会館
9. 1	第4回教育事業委員会	野沢会館
9. 1	県理事会	ホテル国際21
9. 1	県総合防災訓練分科会	佐久市役所
9. 2	県三役会及び県理事会	ホテル国際21
9. 6	県青年女性委員会	長野県建築士会館
9. 7	第1回東信ブロック連絡会議	レストランふじや
9. 8	第3回社会貢献委員会	かつ栄
9. 9	三団体親睦ゴルフコンペ	サニーカントリー
9. 12	県CPD専攻建築士制度運営委員会	長野県建築士会館
9. 12	第3回交流委員会	野沢会館
9. 13	県総合防災訓練全体会議及び分科会	佐久市コスモホール
9. 14	第2回三役会及び第2回幹事会	野沢会館
9. 15	第2回青年女性委員会	野沢会館
9. 16	第1回総務企画・交流合同委員会	野沢会館
9. 20	県建築活動委員会	長野県建築士会館
9. 27	県フォーラム実行委員会	長野県建築士会館
10. 1	建築士フォーラム2016 in北アルプス	大町市
10. 2	長野県総合防災訓練	白田総合運動公園

月 日	行 事 名	場 所
10. 3	代議員選挙立候補受付	佐久合同庁舎
10. 7	県三役会	長野県建築士会館
10. 11	第4回社会貢献委員会	野沢会館
10. 13	県ゴルフ大会	上伊那国際ゴルフクラブ
10. 26	第2回実務講習会	佐久平交流センター
10. 28	第2回空き家対策佐久地域連絡会議	佐久合同庁舎
10. 29	建築士ネットワーク・佐久2016	ベルウィンこもろ
11. 2	佐久南インター景観をつくる会片付け作業	R142号線沿い
11. 2	第2回法人推進特別委員会	長野県建築士会館
11. 7	県青年女性委員会	長野県建築士会館
11. 8	県防災委員会	長野県建築士会館
11. 9	第3回三役会	佐久グランドホテル
11. 12	第2回氷地区風穴周辺の清掃作業	小諸市氷地区
11. 12	第13回佐久地域建築文化賞現地視察下見	佐久地方事務所管内
11. 15	第2回東信ブロック連絡会議	佐久グランドホテル
11. 18	第2回総務企画委員会	野沢会館
11. 19～20	子どもと作ろう！ウッドクラフト	イオンモール佐久平店
12. 2	県理事会	松本市
12. 7	第13回佐久地域建築文化賞審査会(現地視察)	佐久合同庁舎
12. 12	第4回三役会及び第3回幹事会	佐久グランドホテル
12. 14	東信ブロック会計説明会	上小合同庁舎
12. 15	第1回役員選考委員会	かつ栄
12. 16	支部長選挙公示	
12. 18	第3回情報広報委員会	車留夢
12. 19	第3回青年女性委員会	こんどう
12. 20	佐久穂町と災害時における 応急危険度判定等の協力に関する協定締結	佐久穂町役場
12. 22	第4回情報広報委員会	佐久グランドホテル



# 建築士ネットワーク・佐久2016

## ～豊かな郷土を紡ぐ～

●日時 平成28年10月29日（土）午後2時より

●場所 ベルウィンこもろ（小諸市）

1) 開会セレモニー

- ・開会の辞
- ・綱領朗読
- ・建築士の歌斉唱
- ・支部長挨拶
- ・来賓祝辞
- ・来賓ご紹介
- ・会員表彰

2) ストレッチ体操

- ・社会福祉法人みまき福祉会  
温泉アクティブセンター 熊谷莉恵氏

3) 講演会

- ・演題 「建築家が考えるまちづくり」
- ・講師 三浦敏伸氏  
(株)レーモンド設計事務所 代表取締役

4) お礼の言葉

5) 閉会

- ・閉会の辞

6) 懇親会

▲ 建築士ネットワーク佐久・2016  
『豊かな郷土を紡ぐ』



## 文化講演会

### 三浦敏伸氏の講演を聞いて

大井 正広

大会テーマ「豊かな郷土を紡ぐ」と題して平成28年10月29日（土）に建築士ネットワーク佐久2016が小諸市に在るベルウィンこもろで開催された。その大会での講演会では、「建築家が考えるまちづくり」を演題に、講師(株)レーモンド設計事務所 代表取締役 三浦敏伸氏をお招きした。講演内容は、戦前及び戦後から近代に至る間、アントニン・レーモンドというチェコ出身の建築家の、日本における主な作品の紹介で一貫していた。又、当該設計事務所の創設者レ



ーモンドに対する畏敬の念に溢れた三浦氏の講演であった。ご紹介いただいた作品の中から印象深いものを中心に講演会の感想を寄稿いたします。

人間的尺度で、シンプルに、クライアントにも分かりやすく、僅かな空間すら無駄にせず、



オリジナルな建築の追求をすべし。これが講演会の冒頭、レーモンドから継承された設計理念であるとの説明があった。そうしたレーモンドの設計理念が集約されていると言う「軽井沢の



新スタジオ」をはじめとする数点の作品が軽井沢町に現存することを知り、この東信地方の気候風土に呼応した建築のエッセンスを、少なからず知り得ている者にとっては感慨深い。障子や和紙に代表される和風インテリア、地産の唐松による屋上緑化、屋内外の空間の架け橋となる広縁や縁台、むき出しの丸太による架構。住むほどに日本的な情緒が湧くに違いない建築に興味は尽きない。

レーモンドの略歴をあらためて見返した。チェコに生まれ22歳の時にアメリカに渡り設計事務所に勤務している。日本へは帝国ホテルのプロジェクトの為、初来日している。31歳の時だ。戦後再び来日を果たすまでの間に、イタリアやインドを歴訪している。そうした渡航により異文化に接する機会は、建築家にとってこの上ない糧となることだろう。実際に、その地で生活しながら行う創作が、その国の伝統文化と融合する。それを日本で成し得た建築家が、アントニン・レーモンドであった。戦後間もなく来日して日本再建の為の電力開発事業に従事、三年目で東京事務所を再建したことも興味深い。当時の日本に自らの作品を重ね合わせる時、心中去来した思いは何か。原動力の発生源は、日本の惨状に起因していたのではなからうか。

レーモンドが日本に残したものは、建築だけ

ではない。レーモンド設計事務所の沿革が後進の育成を果たしたことを教えてくれる。また、戦後から近代の日本の状況から推察するに、中央、地方問わず存在する作品は、復興に向けてのエールであり、それを遂げた日本へのオマージュのように感じる。強いては、日本人に向けた、祈りにも似たメッセージとしてとらえよう。

講演会で配布された資料から印象に残る作品を年代順に。イタリア大使館別荘 日光 1928年は、日本の民家から学んだ設計技法という説明もあった広縁が印象的。地産の杉を使うなど経済性も重視した。軽井沢の家1933年は、外部に放たれる開口部と、その内と外の境界にある縁台が印象的。聖ミカエル教会 札幌 1960年は、スタンドグラスの効果を和紙で表現。無償で設計したとの説明があった。群馬音楽センター 高崎 1961年は、「デザインは構造で決まる」というレーモンドの言葉の通り、構造が印象的。昨今、解体の噂もあるようだ。軽井沢の新スタジオ 1962年は、雨水を利用した特殊な暖炉の煙突で、茅葺屋根に火の粉がかからないように工夫されている。佐久市庁舎 1974年には、レーモンド自身も基本設計に従事するが、その2年後の1976年に死去している。

「日本は実にノーブルである。」初来日した時、日本を形容したレーモンドの言葉として、



三浦氏が紹介して下さった。レーモンドの偉業に敬意と感謝を申し上げたい。講演会を聞いて、そんな心境となった。

# 小諸市氷区氷室調査活動について

佐久支部 青年女性委員会 緑川 博行

小諸市の氷区の名を知ったのは2014年の夏に我々、佐久支部青年女性委員会と信州大学の学生と共同で小諸の街並みについて調査を行なった、その時のことだった。

安永三年(1774)、嘉永五年(1852)にも同様の記録がある。

これらの記録から江戸時代には小諸城(懐古園)に氷を献上していた事実があった。



街の機能として冷蔵庫の代わりを行っていたのである。

当時夏の暑い時期に氷は大変貴重であったに違いない。そのため氷区の氷室も重宝したものと思われる。

また石積みの岩は、傾動地塊で形成された御牧ヶ原の岩盤を使用したと思われる。

岩の性質上温まりにくく冷めにくい性質をもつことから、気温の高いときに空気が岩に触れると空気が冷

翌年の夏、機会があり初めて訪れることとなった。

あぐりの湯に車を停めて、徒歩10分程下った辺りに遺跡のような氷室(石積みのみで屋根は無い)が数室ある。山麓の森の中だったので鬱蒼とした

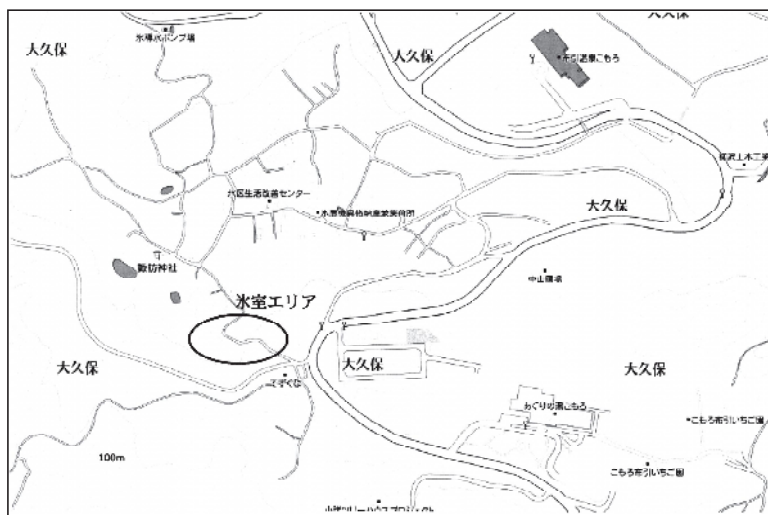
感じで不気味であったが、氷室内部に入って驚いた“寒い！！”と体感できるのである。一体どのような仕組みなのか？

昔の人の智慧は凄いと感心をした。まさに天然冷蔵庫なのである。調べてみると小諸藩の「御用部屋日記」に次の記述がある。

明和二年(1765)乙酉年 日記  
六月朔日乙己  
今朝大久保村より氷差上候。

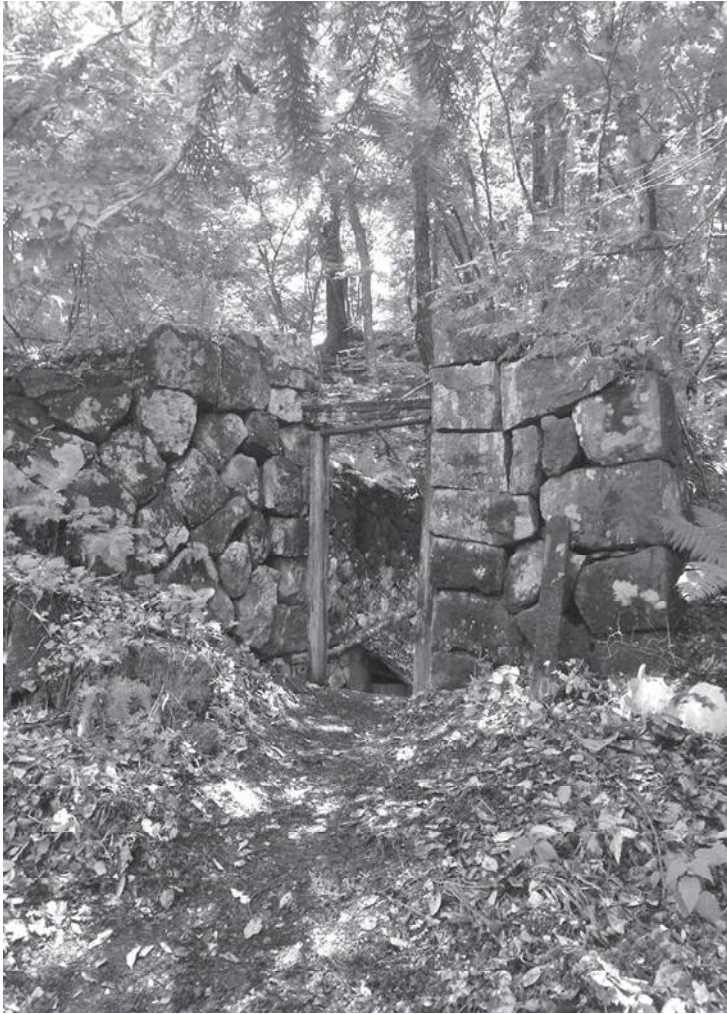
やされる。冷たくなった空気は重くなり下に沈んでいく傾向がみられる。その為、地下の岩ほど冷えると考えられる。

また、冬には夏とは逆に周囲が寒いときでも岩





がわずかに空気を暖めるため、夏は涼しく、冬は若干暖かい環境が保たれるのだ。他にも水脈や永



から氷室の維持保全を考え清掃ボランティアを夏と秋に2回程行った。氷室を見学に来る方のために道にある枝や落葉などの撤去清掃を行いました。

現代の街は何処も似たような街並みになってきている、大きな要因としては経済性と効率性の追求が挙げられる。これらは物質的豊かさと、利便性をもたらしてくれている。しかし、その先に一体何があるのだろうか？ 立ち止まって考えてみることも大切だと思う。

現代に失われつつある先人の叡智を残していくことは重要である。

ますます増える情報量とIT技術の進歩は先が解らない。

氷室は原始的な石積や土工事がメインとなっている。現代人の発想ではゼロから考え作るのは不可能だと思われる。

またお城や宿場や民家などは異なる構造物ではあるため、あまり注目はされていない。

しかし、町の機能性を考える上では、食料や文化の基盤となっていた。特性が異なるが故に希少な価値とも言えるのではないだろうか。

久氷土の影響などの説もある。

明治になり時代の変化とともに、全国にあった氷室の氷を藩主や皇室に献上する文化は無くなりはしたが、過去に村人や地域の人が無念に作った



未来へのメッセージとして氷室を残していくことが出来れば、佐久支部青年女性委員会も幸いです。

事実を文化遺産として未来へ残して頂きたい。

佐久支部青年女性委員会では、このような思い





# 「親子で作ろう!! ウッドクラフト2016」 事業報告

社会貢献委員長 吉澤 和彦

11月19日(土) 20日(日)の2日間、第10回「親子で作ろう ウッドクラフト」をイオンモール佐久平店で開催しました。



7月から毎月委員会を開き、準備をしてきました。

製作する材料も、毎年会員さんに事前にお願ひして、切断・下穴あけ等の加工をして頂いています。

当日は、釘を金づちで打ちつけたりインパクトドライバーでビスを止めたり、親子で楽しそうに組立をしていました。会員の方々は



「補助ですよ」という言葉も忘れて、中心になって組立をしていました。用意した、椅子60台・花台50台・CDラック30台も、2日間で



すべて組立終了する事ができました。又、ホットボンドコーナーも盛況で、たえず満席のお客さんが、木の枝・木の実・果物の種等を使って作品を作っては、眺めたり楽しんでいた様に思います。

近年、地震による災害が多発している事から、佐久支部エリア内の防災マップ等を展示して、イオン佐久平にご来店のお客様に関心



をもって頂こうと計画しました。様子を見てみると、佐久地域では災害が少ないのと「この辺ではないだろう」との意識からか、見て頂いている方は少ない様に感じています。

終りに、加工・当日のお手伝い、そして木の実等を事前集めて頂いた会員の皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

# 第13回 佐久地域建築文化賞入賞者

## ● 最優秀賞（地方事務所長賞）

### \* 一般部門

設計者	武重 直人（㈱アーキプラン）		
所在地	佐久市猿久保	作品名	佐久市 市民創錬センター

### \* 住宅部門

設計者	土屋 将奈（土屋建築設計舎）		
所在地	佐久市常田	作品名	常田の家

## ● 優秀賞

### \* 一般部門

設計者	東濱 四雄（㈱東浜設計）		
所在地	立科町大字芦田	作品名	立科町 保育所

### \* 住宅部門

設計者	鎌田 賢太郎（鎌田建築設計室）		
所在地	佐久市岩村田	作品名	一本柳の家

## ● 特別賞

### \* 一般部門

該当者なし

### \* 住宅部門

設計者	鎌田 賢太郎（鎌田建築設計室）		
所在地	軽井沢町大字軽井沢	作品名	精進場川の畔の家

## ● 奨励賞

### \* 一般部門

設計者	東濱 四雄（㈱東浜設計）		
所在地	川上村居倉	作品名	川上村若者定住促進住宅建設工事

### \* 住宅部門

設計者	井野 勇志（Life環境デザイン一級建築士事務所）		
所在地	軽井沢町長倉	作品名	灯りの家



特別寄稿

# 小春日和の時に思う・・・

長野県建築士会名誉会長 出澤 潔



夢みたものは ひとつの幸福  
ねがったものは ひとつの愛  
山なみのあちらにも しずかな村がある  
明るい日曜日の 青い空がある  
・・・・・・・・・・・・・・・・  
・・・・・・・・・・・・・・・・  
夢みたものは ひとつの愛  
ねがったものは ひとつの幸福  
それらはすべてここに ある と

秋が深まる頃、しばらくぶりに寄った書店で『立原道造の夢みた建築』を見つけて、早速買い求め読み耽る。抒情性と音楽性を持つ十四行詩の立原の作品は永く私の心を惹きつけている。譬えようもない優しさと温もりのある立原の世界に人はひと時の夢を見ることが出来るのだろう。社会人になりたての貧乏社員が、高価な全集を買い求め、楽しんでいた頃が懐かしい。街に立原道造の文字があれば読み耽り、展覧会があれば足を運び、折に触れては東京本郷の立原道造記念館で時間を過ごしたことを思い出してしまう。

『同書』によれば丹下健三の一年先輩だった立原道造は製図室を通して親交を深め、互いに刺激し合い学び合う仲間だったようだ。年間の優秀な課題作品に与えられる「辰野賞」を3年間連続で受賞した立原に対し、丹下は立原が卒業した翌年にはじめて受賞している。

『同書』は「対比的な建築観が互いを刺激した立原と丹下であったが・・・。立原は建築のあるべき姿を、ありのままの自然との調和に見

出していた。人工と自然とが、より自然により添ったかたちで共存する世界を夢みていた」と立原と丹下の関係に触れている。

いつの頃だったか、立原が卒業直後の1937年夏に制作した浅間山麓の山荘計画案を見たことがある。ずいぶん前の事で記憶が鮮明でないが、強い刺激を受けた事だけをはっきり覚えている。その計画案は数枚のスケッチパースだったと思う。1枚には浅間山を真ん中にした唐松林の中にポツンと点らしきものが示され、2枚目、3枚目と建築の姿をだんだん大きく表現しているものだった。人工物としての建築を自然の中にどう置き、どう調和させるかの思考の過程が見事に表現されていることに感激したのだった。病を得て24歳で夭折した立原道造は「萱(わすれな)草(ぐさ)に寄す」「暁と夕の詩」の詩集のほか多くの詩や散文を残し、それを愛する人の心に豊かさを与え建築やまちづくりに携わる人々にも人と自然との関わりを伝えている。

伊東豊雄氏は『日本語の建築』で「自分が持つ空間感覚は日本の言語空間の中で育まれたと考えている」として「インターネットの登場によって英語は普遍語としての位置を得た。英語の世紀に入った今、英語はひたすら拡張していく。このことは、グローバリズムの経済社会と完全にオーバーラップして見え、合理化を追求したモダニズム建築、表層のみを重視した映像のような建築群を思い出させる。英語は国や地域ごとの特殊性を失わせていく」と述べている。そして「日本語の持つ余韻や曖昧さを、楽しみ

ながら自由に振る舞える空間をどうやったら作れるか、これが自分の建築のテーマである。グローバル経済の発展や管理社会の進行という社会的な背景と、それに伴う建築の均質化という問題が顕在化する中で、言葉によって育まれたものが何らかの意味を帯びてきているように思う」と述べている。

小春日和の陽を浴びながら「建築は、はじめに造形があるのではなく、はじめに人間の生活があり、心の豊かさを創り出すものでなければならない。そのために、設計は、奇をてらわず、単純明快でなければならない」と教えて下さった吉村順三先生の言葉を思い出しています。

41号から本号まで、会報『ちくま』にこのような場を戴きましたことを大変光栄に思います。請われたままに雑文を投稿し、役員の皆様には大変なお手数をお掛けしました。

こうした場が会員皆様のコミュニケーションの場になれば嬉しいと思います。

佐久支部会員皆様のご発展ご活躍を祈りながら・・・・・・・・・・。



## 新入会員の声

### 建築士会に入会して———

山田 まどか

2015年の春に東京から移住し、御代田で設計事務所を開業いたしました。これまで建築士会には入ったことがなく、資格の手続き場所くらいにしか感じていませんでしたが、新しい土地で自分で仕事をしていくことになり、また、匿名性の高い首都圏と違って顔の見える関係の中での生活に、職能団体の存在感と必要性を実感し、遅ればせながら2016年の2月に入会させていただきました。

設計事務所に忙しく勤めながら資格を取った7、8年前には、まさか自分が東京以外の場所に住むとは思っていませんでした。けれどもそこからさらに7、8年前、建築設計の実務の道に進みたいと思った学生の頃を思い起こしますと、将来の漠然としたイメージとして、メディアの先陣を切るような特別な設計事務所ではなく、人々の日常のなかで役割を果たす、少しおこがましい言い方ですが、日々の生活の環境をじわじわ良くする「まちの設計事務所」として仕事をできるようになりたいたいと考え、実際に進学の面接などでもそう話していたのを最近思い出しました。

それを思えば、「どこで暮らしたいのか」が急にこの2、3年で自分の関心事に浮上して移住に至ったのも、思いつきのようでは実は必然かもしれない、ここで暮らし、仕事をするこの意味を考え、先輩の皆さまの姿に学びながら、一歩ずついねいに歩んでいきたいと考えています。

東京での用事から佐久平に戻り、乗り物から降りると、空気の中に木々の匂いを感じ、帰ってこられて良かった！と毎回嬉しくなります。その一方で、高度による夏の日差しの強さ、それを街中の舗装が照り返す暑さ、すぐ隣の田園地帯の涼しさとのギャップにもびっくり。街中の民間の駐車場に強制的に1本ずつ高木を植えるようなハードルの高い（ということは重々承知しています）ことをすれば、山の景色と遠近でつながり、照り返しの暑さもやわらいで、

高原らしい気候と都市景観の特別な印象を作れるのでは、などと道路沿いの広々した駐車場を眺めながら妄想して楽しんでいます。今後ともよろしく願いいたします。

## 建築士会に入会して

土屋 将奈

建築の道を志し20年目となった今年、独立を機に建築士会へ入会させて頂きました。新入会員歓迎会に参加させて頂いた際は、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができました。活動計画を拝見させて頂いた際に、建築士会の皆さまが活動の重点を社会とのかかわりに置いていることがとても強く印象に残りました。社会貢献活動として清掃活動に参加させて頂いた際に、この地域にもまだ知らない自然豊かで感動的な場所があることを知り、地元の良さを再認識致しました。また、地域にお住いの方から、今後この活動を通してどういった方向へ向かいたいかなど、具体的にお話を聞くことができたのは非常に良い経験になったと思います。

以前、長寿命の企業を研究されている方とお話させて頂いたことがあり、「三方よし」という言葉を教えて頂いたことがありました。「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三つの「よし」を表す言葉で、企業理念の礎となる言葉だそうです。大切にしている言葉の一つで、売り手だけが良い思いをするのではなく、買い手も心から満足し、さらに事業を通じて地域社会に貢献するというもので、その理念を大切にしている企業は、社会から必要とされ、また企業の寿命も長い傾向にあるのだそうです。

建築士会の社会貢献は、まさに「世間よし」につながる活動であり、より魅力あるまちづくりに向うためのものであると感じました。また人との関わりや活動を通して、経営理念、設計理念を培える場所であると共に、自分が成長できるととても良い環境であると感じました。

末筆ながら、建築士会佐久支部の益々のご発展をお祈りし、新入会員の挨拶といたします。

## 建築士会活動に参加して

林田 光洋

本年度、本会佐久支部に入会させて頂きました林田光洋と申します。

「青年女性委員会」の活動を中心に参加させて頂く中、夏に実施されました「風穴の清掃ボランティア」は、小諸市に住みながらその存在すら知らなかった私に風穴を実際に体感する貴重な経験をもたらしてくれました。アットホームな雰囲気の中、とても清々しく気持ちの良い汗を流す事ができました。他にも先輩会員の方々による、これまでの活動内容・経験等を拝聴させて頂く機会があり、多岐にわたる興味深い内容に大変刺激を受けました。

活動を通し、人と関わる事で「自身の見識を広め、様々な社会貢献につながる」ことを再確認できました。今後是非、諸活動へ積極的に参加させていただきたいと思っております。

話しは変わりますが、昨今我が国では、各地で『地震』への警戒が強まっております。M7クラスの首都直下地震が30年間に70%の確率で発生すると言われてはいますが、つい最近、私は出張先の東北で偶然『大型の地震』に遭遇しました。その時は運よく、大きな被害に遭遇することはありませんでしたが、うろたえるだけであつた私は「地震の怖さ」と「自身の無力さ」を痛感しました。専門家の見解では『3・11の余震』とのこと・・・「5年以上経つ今でもこれだけの余震が」と驚かされました。

現地の方と話をする機会があり、「我が家は、『天然の免振構造』だから、『3・11』でも物が落ちてきただけで、たいして被害はなかった。」などと笑いながら話して頂きました。築60年を超える木造家屋ですが、確かに目視による損傷等は少なく、ご自身で幾度も修繕を重ねられた建物は、家主の柔軟な人柄にも似た、独特の雰囲気が感じられました。

『天然の免震構造』のような「柔軟性がじしんに対し要となってくる」ことを実感させてくれる出来事でした。

最後に、今後の皆様のさらなるご発展をお祈りいたします。



## 賛助会員の紹介

### 池田建設株式会社

平素は建築士会佐久支部及び事務局の皆様の御指導を賜り、厚くお礼を申し上げます。

当社は昭和53年設立以来、地域の皆様の温かい御支援と御愛顧を賜りつつ、佐久商圏を中心に営業を展開しております。

さて、平成27年から、長野県地球温暖化対策条例における環境エネルギー性能等検討義務に関する、省エネルギー導入が求められる様になりました。

そこで、当社は旧態依然の住宅建築を脱却する為に、イシンホーム住宅研究会に入会する事を決断し、平成28年2月からイシンホーム佐久平店として事業を展開し、好評を頂いております。

今後の士会の益々の発展を御祈念申し上げますと共に、当社も地場産業発展の為の一翼になりたいと存じます。

#### 〔イシンホームの概要〕

- フラット35Sを採用
- ソーラーシステムによる売電
- 一次エネルギー消費量等級5
- 構造材（檜）等を使用
- 省令準耐火構造仕様
- 全館空調システム第1種換気

等を採用し顧客のニーズに対応しております。

尚、「ネット・ゼロ・ハウス」ZEH（ゼッチ）補助金の公募申請を順次実施する予定です。

#### 〔品質・OH&S方針〕

『建設事業を通じて確かな品質の提供、安全な施工及び環境に配慮した設計と施工に努め、顧客のニーズに沿う』

上記方針を念頭に社員一同、日々奮闘いたします。

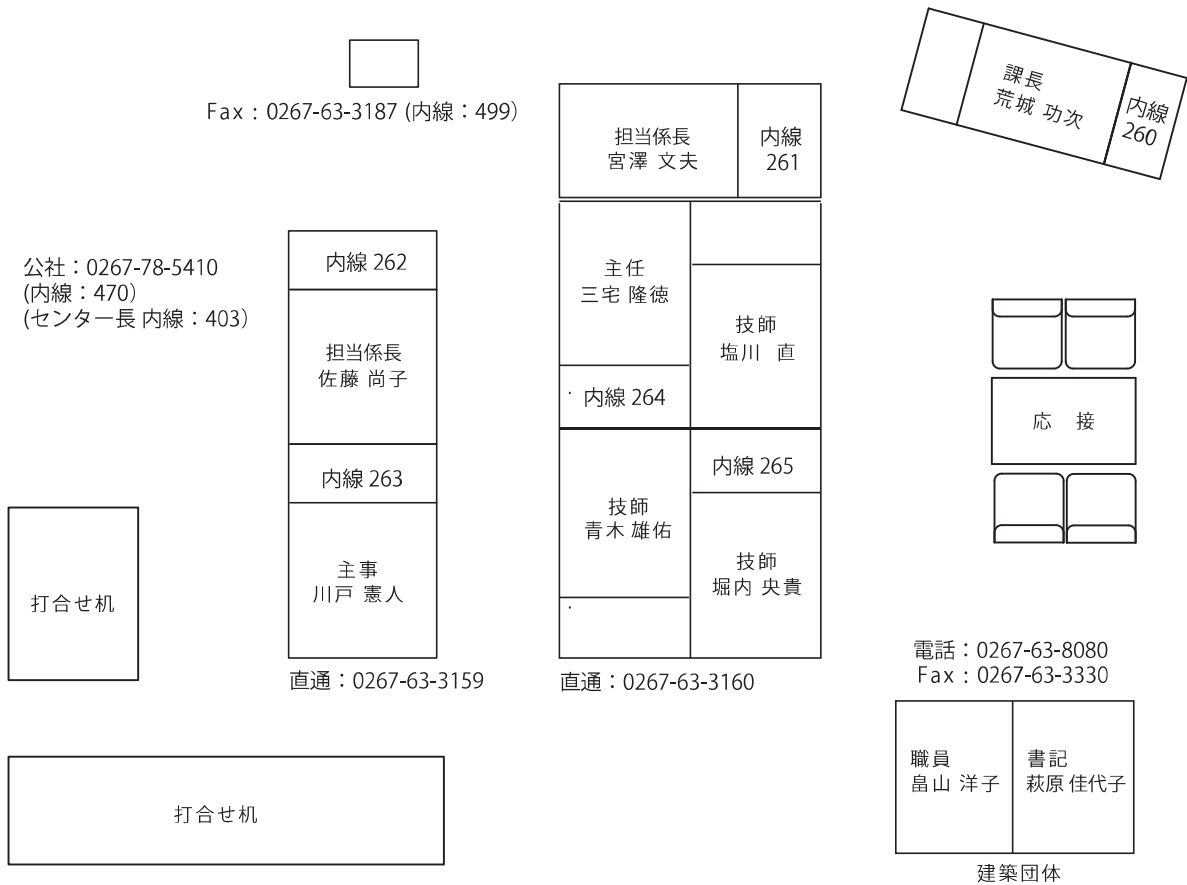


〔I 小学校竣工写真〕



〔K 邸竣工写真〕

**建築課配置図**



入口

● **編集後記** ●

長野県建築士会名誉会長の出澤 潔様「特別寄稿」が今回で最終回をむかえます。毎回楽しみにされていた読者も多く、残念であり寂しく思います。

ほんとうに長い間ありがとうございました。

今後のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

会報の内容で、お気づきの点等ご意見ご感想をお寄せください。

会報『ちくま』第56号 2017/1  
 発行者 (一社)長野県建築士会 佐久支部  
 情報広報委員会  
 事務局 〒385-8533 佐久市跡部65-1  
 佐久地方事務所内  
 TEL 0267-63-8080  
 FAX 0267-63-3330  
 E-mail:ken8080@seagreen.ocn.ne.jp  
 支部HP <http://www.aba-saku.com/>  
 印刷所 プリントショップ コスモス  
 TEL 0267-54-8010



は平成29年7月中旬予定です。